

1 審議会名	上田市環境審議会
2 日時	令和4年8月17日 午後1時30分から午後2時45分まで
3 会場	市役所本庁舎 2階 会議室 202-203
4 出席者	高橋伸英会長、川田富夫副会長、小平六左エ門委員、林健一委員、吉川由紀子委員、瀬上たか子委員、土川哲志委員、北條作美委員、保母裕美委員、山野井徹委員
5 市側出席者	土屋上田市長、北島生活環境部長、山岸生活環境課長、中村生活環境課長補佐兼環境政策担当係長、片上生活環境課長補佐兼環境保全担当係長、母袋生活環境課主任、小宮山生活環境課主事
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	1人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和4年8月19日
協 議 事 項 等	

1 開会
2 会長あいさつ
3 諮問
4 市長あいさつ
5 議事
(1) 第二次上田市環境基本計画の中間見直し及び上田市地球温暖化対策地域推進計画の改定方針について
・資料に沿い、事務局から説明
・以降、協議
(委員) 資料について、文字が見切れているものや、枠内に文字が収まっていないものが見受けられる。今後はこのようなミスがないように注意いただきたい。
(委員) 今回の議題について、内容をここにきて初めて示されたうえ、漠然としているため、なかなか質問が出てこない。事前に資料を送付するなど考慮いただきたい。
(委員) 「2050 ゼロカーボンシティうねだが実現した姿(案)」の中で示されているうちの一つである「1.5度ライフスタイルの浸透」について。 食の地産地消、自産自消と示されているが、このあたりをもう少し大きく取り上げていただきたい。食べることは基本となることであり、小さい子供の教育に始まり、私達の普段の買い物にも関係してくるものである。
(事務局) 今回は、第二次上田市環境基本計画(以降、「基本計画」という。)や上田市地球温暖化対策地域推進計画(以降、「推進計画」という。)をこういう形でやっていくという方針案として提示させていただいた。 これから事務局にて改正案を検討し、提示していくことになるが、事前に資料を送付してから、審議会にて委員の意見をいただく形で進めていきたい。
(事務局) 昨年3月に策定した上田市地球温暖化対策地域推進計画の緩和策には4つの基本方針(再生可能エネルギーの普及、省エネルギー対策の推進、地域環境の整備及び改善、循環型社会の形成)がある。「1.5度ライフスタイルの浸透」についてもその中に含まれる形で検討していく。
(委員) 基本計画の中間見直しについては、主要なところは基本的にそのまま、細かなデータ等を見直していくことになる。推進計画については、国の地球温暖化対策計画の見直しの結果を踏まえて全面的に改定するというところで、現行の目標年度(2027年度)につい

ても、国に合わせて2030年を目標年度とするという理解でよいか。

(事務局) そのとおりである。

現行の推進計画では2027年までに24.7%削減としているが、目標を引き上げる方向で検討する予定である。

国の地球温暖化対策計画の目標が2013年度比で46%削減という目標なので、それより低い数字は、まずあり得ない。県はそれより高い目標値なので、県と国の目標値を踏まえて数値目標を定める。

(委員) 日照条件について、2018年、2019年は日照時間が全国で3位、4位となっているが、2020年では28位と急に順位が変わっているのは、天候が悪かったということか。

(事務局) そのとおりと思われる。観測地点の変更といったことではない。

(委員) 推進計画におけるCO₂削減目標を市民に周知する際、一人又は1世帯ではどういった取組をすると、どのくらいの削減効果になるのか、どのくらい目標達成に貢献するのかということを、分かりやすく示してもらいたい。同様に、企業における場合も示していただくとありがたい。

(事務局) 主体別の行動指針という部分にておいて、そういった指標の検討を行いたい。

(委員) 現行の推進計画において、「交通の低炭素化」という基本施策があるが、上田市からのCO₂排出源として産業部門も相応な排出源となっている。

交通に限らず産業部門も含めたものとした方が良いと思われる。

(事務局) 上田市としては、主に家庭部門、業務その他部門、運輸部門からの排出が全国平均と比較して多いという形で示しているが、産業部門についても、当然、脱炭素化に向けた取組が必要になってくる。

改定後の推進計画では、そういった部分も加えていく形で検討を進めて行きたい。

(委員) 上田市ゼロカーボン戦略と推進計画はどのような位置付け、関係になるのか。

(事務局) 上田市がゼロカーボンに向かっていくにあたり、区域施策編と呼ばれる上田市全域を対象とした温暖化対策計画と、事務事業編と呼ばれる上田市役所をひとつの事業所として考えた時の温暖化対策計画の両方を、整合をとりながら進めて行く必要がある。それら2つの計画の整合をとりながら2050年のゼロカーボンに向けた取組を推進するということを、ゼロカーボン戦略として位置づけている。

(委員) 先日、上田市でゼロカーボン戦略策定委託業務の事業者を選定したかと思う。その事業者に委託して策定してもらうものが、改定後の推進計画そのものとなるのか。もしくは、ゼロカーボン戦略として策定されたものから、市の方で何かを更に落とし込み、推進計画とするのか。

(事務局) 委託で実施する主たるものは、再生可能エネルギーのポテンシャルに係る調査等である。計画改定そのものを、丸々、事業者に委託するものではない。

(委員) 配布資料の中で、「ゼロカーボンシティうえだが実現した姿(案)」とあるが、この中には再エネだけではなく、例えば吸収源対策も含めて、都市構造や産業構造に及ぶものが含まれている。こういったことを議論する場はどこになるのか。

(事務局) 先ほど事務局から申し上げた区域施策編・事務事業編というのは、CO₂の削減目標になるが、ゼロカーボンシティというのは、脱炭素を一つの解決手段として、魅力的な街の実現を描くものである。ゼロカーボン戦略として、生活であったり交通部門での取組であったり、どのようにCO₂の削減と同時に持続可能な上田市の姿を描くことに繋がるのかを検討することになる。市民アンケートによる市民の声も踏まえつつ、本審議会にて審議いただきたいと考えている。

(委員) 環境審議会は専門の分野の方が集まっており、様々な意見が出ると思うが、例えば、まちのあり方や都市構造、産業構造等をゼロカーボンシティの実現を見据えてこうしていきましょう、というものを提示されても、専門的な知見からきちんと審議できるのかという部分には不安が残る。

ゼロカーボン戦略を作りあげるには、審議会よりもひとつ手前のところで専門的な見地から議論する場が必要と考える。そこで議論されたものを、次に、審議会にて審議するというやり方が良いと思う。

(事務局) 御意見について、前向きに検討させていただく。

(委員) もちろん市民も主体的に取り組むことではあるが、上田市がこれからゼロカーボン戦略に本気で取り組んでいくということを、どういう組織で、どのように検討するのか、見えるようにしてもらいたい。

委託事業者であるコンサルタント会社におまかせではないか、といった疑問が出ないように、見える形で提示することが重要と考える。

審議会で議論した結果として計画を提示されたとしても市民は納得しないだろう。審議の経過も踏まえて、市民に見えるような形をぜひ検討いただきたい。

(事務局) コンサルタントにも取り組んでもらう部分はあるが、審議会に諮る前に、委員のご意見を聞く機会等を検討しながら、そういった環境を整える形での対応を検討していきたい。

(2) その他（事務連絡等）

- ・資料に沿い、事務局から説明
- ・以降、協議

(委員) 今年度は、基本計画と推進計画の2つの計画を審議することになるが、どちらか一方を前倒して先に審議していくことはできないか。

(事務局) 基本計画の見直しについては前倒しの審議が可能と思われるので、そのように対応していきたい。

(委員) 素々案として、具体的にどの程度のものが、いつ提出されるのが見えてこない。例えば、第3回までには、上田市の基本事項に係る調査やGHG排出量の現状把握、エネルギー消費の現状把握や分析などが終わって、それらについて審議するなど、具体的に計画の改定の流れを踏まえたものとしていただきたい。

(委員) 今回選定されたコンサルタント会社について、選定の経緯を教えてください。

(事務局) プロポーザル方式によって事業者を公募した。市が定めた業務仕様書の内容に基づいて応募者が事業提案を行い、その内容について審査を行った。審査については、外部の専門家も含めて5人の審査委員にて採点審査を実施し、採点が最も高い事業者を契約候補者として選定した状況である。

(委員) 外部専門家の人選は市で行ったのか。

(事務局) その通りである。

(委員) コンサルタント会社にも良し悪しはあるが、いずれにせよ、コンサルタント会社の提案について、私たちが押し付けられるような形になってはいけない。

今回、公募型プロポーザルという形で公平に事業者が選定されているかと思う。この審議会では、提案された案についてきちんと審議していくようにしたい。

